

5 MAYIS

IN TURKEY

Natsumi Aoki

はじめに

アクセスいただきありがとうございます🍻国際文化学科3年の青木夏海です。最近桜に似た花がそこら中に咲いていて、外を歩くことがより楽しいです。今月は、上旬から下旬までずっとプレゼンテーションがありつつも、夏を感じさせられるイベントを加えてお送りします。



Presentation

中間テストの後半から割と息をつく暇もなく、各授業でプレゼンテーションがありました。国際貿易の授業では、セオリーをもとに特定の国の企業の輸出戦略を考えるものが多いです。正解がない答えにオリジナリティをだしながら、プレゼンを進められるところが面白いなと思っています。

評価基準は基本的に日本のプレゼンと同様、台本は見ない方が高評価で、厳しい先生は台本を使わないように指示をすることもあります。個人的には、台本があるとそれを一字一句違わずに読むことに集中してしまい、かえって内容が入ってこないで、その場で思いついたことを話す方がやりやすいです。自分が即興で使える語彙の薄さに絶望することもしばしば。

トルコ人は一見話すことが得意で自信があるように見えますが、いざ一緒に作業をしてみると、案外緊張しな子も多いことがわかりました。やっぱり何においても人次第でみんな違います。

ある友人によると、彼らはエレガントな話し方や表情を使って自信を取り繕っているようです。しかしよく見ると、笑顔だけでも手が震えている、なんてことが頻繁に見られます。何はともあれ、自分にあったプレゼン方法を模索することが大切です。



Chill'Ness (5/24-26)

カッパドキアと並ぶ、留学生最大イベントの一つ、Chill'Nessに参加してきました。トルコ中の留学生団体から約200人が集まっていた。Foçaというイズミルの中でも北にある街の海で行われる、2泊3日のキャンプです。とは言ってもその名が示す通り、心の休養をメインとしているので、強制されるようなことは常識を除けば特にありませんでした。一日中パラソルの下にいる人もいれば、積極的に行事ごとに顔を出す人まで、個人の自由度が高いイベントでした。



私が到着した金曜日は、実際はイベント2日目にあたるのですが、授業の有無に合わせて自由に出入りができました。現地に着くとまずはテントの組み立てから始まります。2人が入ってぴったりというサイズのテントでした。ちなみにテントの貸し出しは事前申し込みなのですが、シングルでもダブルでも、テントの大きさは変わらないです。このことが事前に知らされていなかったために、ダブルを申し込んだ人が激怒してグループチャットが大荒れしました。トルコ人も留学生も、感情的な人が多いので、このような口論はたびたび発生します。



滞在期間中は、自由にビーチバレーをしたり、泳いだり、黄昏たり、キッチンカーのDürümを食べたりしていました。今まで海に顔を付けることに抵抗があったけれど、今回顔をにつけない泳法を始めて教えてもらいました！キャンプというものの、BBQはなかったです。時々ダンス教室やアクセサリワークショップなどの、プチイベントが開催されました。事前情報にはヨガ教室やウォーターファイトが記載されていましたが、実際にはなかったです。それがちょっと残念でした。



Chill'Nessの期間はプレゼンテーションの日を縫うような日付で正直忙しかったけれど、それをこの期間だけ忘れることができる、非日常な空間でした。おすすめできるイベントです。

[注意！]日差しが強いです。日焼け止めを必ず全身に塗りましょう。私の肩と背中では現在真っ黒です。



Sickness

4月に行ったBalikesirの帰り、発熱と吐き気に襲われました。病院に行かなかったのが何だったのかは分からないのですが、自分の経験則としては食中毒だったのかなと思っています。

それは置いて、グループプレゼンが予定されていた授業を休むことになってしまいました。この授業では、ルールとして、「いかなる理由があっても病院の証明を授業前に提出しなければ、プレゼンやテストの延期はできない」と記されています。でも私は病院に行かなかった。だから、私以外のメンバーが自分の部分をカバーする形で、発表をすることになってしまいました。個人の情報共有がされていない状態のプレゼンは酷いものだったと思います。

自分がこんなパニックを引き起こしたことが何よりも申し訳なかったし、だからといって何ができたのかと言われたら何もできるはずもなく、不甲斐ない気持ちになりました。

ただ、本当にいい友人を持ったものです。誰も私のことを責めるところか、このままだと発表をしなかった私のプレゼン点がゼロになることをメンバーが心配してくれました。その次の週の授業前、先生に交渉をしてくれていたようで、スライドすべてをカバーすることを条件に、特例として私にプレゼンをする機会を与えてもらえました。自分がインターナショナルの生徒で病院にかかることが難しかったことが考慮されたみたいです。

話の結論として、大事な時期に体調を崩した場合、トルコ人の友達に相談をして直ちに病院へ行きましょう。テストやプレゼンの点数は成績の大部分を占めるため、診断書を受け取ることはこの場合とても大切です。

YEMEK

iskender kebab



スライスされたドネルのお肉に、パン、トマト、ヨーグルト、バターを合わせたケバブです。結構定番のメニューなのですが、初めて食べました。食べやすい味で重すぎず、おいしかったです！個人的なケバブランキングの1位2位をマニサケバブと争っています。

Nigiri



ようやく日本と同じ形のお寿司を見つけました。トルコの寿司メニューの区分として、Sushi, Nigiri, Gunkanがあって、それぞれ日本人の言うカルフォルニアロール、普通の寿司、軍艦巻きのことです。Toroを見つけたのでオーダーしてみたら、ただの赤身でした。でも味はおいしかったです。

2貫で390TL(約1900円)は高すぎます。

Custom dessert



Alsancak(地名)のKarakoy(店名)に、トッピングを選ぶことができるカフェがあります。私はブラウニーにイチゴとナッツ、ホワイトチョコを乗せました。チョコレート好きにはたまらない味です。他にも、ベースがシュークリームやタルトなど、組み合わせがたくさんあるので、また試してみようと思っています。

Nachos



普通にトルコではなくメキシコ料理です。お酒のおつまみとしてメニューによくあります。チーズでひたひたになっているものを選ぶとおいしいです。気になる紫色のソースですが、おそらく紫キャベツだと思われます。トルコで定番のソースですが、私はあまり好きではないです。



休日

ビーチバレー

留学生イベントで、ビーチバレーをしました！前の学期から時々開催されていたのですが、今回初めて参加しました。トルコはバレーが強い国なだけあって、トルコ人はバレーが上手な人が多い気がします。私は低身長だしそんなに運動が得意なタイプでもないし…試合をしたら足を引っ張ってしまうな、と不安に思っていました。でも、結構ウェルカムな雰囲気でした。試合に混ぜてもらえました。そもそもみんな得点に執着がなくて、今誰が審判やカウントしてるのかすらわからなかったです。ただただバレーを楽しむ会で楽しかったです。



餃子パーティー

仲いい友人数人を招いて餃子パーティーをしました。日本には餃子の皮が売っているから餡をつくって焼くだけの簡単な料理ですが、トルコにそんなものはないので、粉をこねるところから始めてオリジナル餃子を作りました。トルコにもヨーロッパにも餃子に似ている料理があって、何となくみんな作り方を知っているのが面白いなと思いました。でも彼らにとっての餃子はいわゆる水餃子のことで、焼き餃子を食べるのは今回が初めてだったようです。具材はひき肉、チーズ、チョコ、ジャムを用意しました。個人的にはチーズ肉餃子が一番で、チョコ、マーマレードの順位でした。



終わりに (残り一か月!)

トルコでの生活が、残すところあと一か月となりました。この報告書を書くのも、あと1回か2回です。留学初期のころから時の速さを嘆き続けて、ついにこの時がやってきたと思っています。

ふとした時に、今当たり前に見ている景色をあと何回見ることができるかな、と感傷に浸ることが度々あります。終わりが近づくにつれ、つい些細なことでも写真に収めようと手が動いて、さらに寂しい気持ちが沸き上がってきます。ヨーロッパから来ている学生であれば、比較的簡単にイズミルに帰ってくることができるけれど、飛行機で15時間離れた東アジアの人間からすれば、今後一生戻ってこれない可能性だって大いにあります。

この先1か月は、やり残したことをひとつづつ潰しながら、今まで当たり前にあった景色を目に焼き付けるように生きていきたいです。さて、母が送ってくれた日本の調理キットはいったい使い切れるのでしょうか？

